

## 教育論文・教育実践記録のしおり

### 1 ねらい

「目標－計画－実践－検証」のサイクルに基づいた教育実践の意識を高めるとともに、教育活動の充実を図り、本地区教育の発展に寄与することを目的として、鹿児島教育事務所管内の小・中・義務教育学校の教職員を対象に「教育論文」と「教育実践記録」を募集します。

### 2 研究の対象

何よりも、教育論文（教育実践記録）であるという意識をもつことが大切です。「理論研究」、「調査研究」など、いろいろな研究論文が想定されますが、ここで募集する教育論文や教育実践記録は、「日常の教育実践に基づき論ずる」ことを大きな目的としています。あまり難しく考えずに、日頃の実践をありのままに書いて構いませんが、教職員は、子供との関わりが中心ですので、自ずと「子供の姿」が記述されることとなります。「子供の姿」が見える教育論文（教育実践記録）を心掛けてください。

### 3 教育論文のまとめ方

#### (1) 内容

教育課題や研究課題について、理論のもとに仮説を立てて検証し、その結果と考察から課題解明を目指すことに重点を置き、演繹的な研究手法をとります。

教育論文として備えたい要件としては、先行研究や参考文献などを基に、自らの研究がどのような位置付けであるのかをはっきりさせることが必要です。また、研究仮説を設定しますが、この仮説の設定によって、論文の客観性や妥当性が問われることとなります。

#### (2) 構成

教育論文の構成については、特に形式が定められていない場合には、文言に違いはありますが、次のような配列になっていることが多いようです。それぞれの実践に応じて工夫してください。

(例)

1	研究主題設定の理由	----- 「はじめに」とする場合もあります。
2	研究の構想	
(1)	研究のねらい	
(2)	研究の仮説	
(3)	研究の計画	研究内容について具体的に述べます。
3	研究の実際（内容）	----- 必要に応じて項立てがなされます。
4	研究のまとめ	----- 最後に「結果の考察」を述べます。
(1)	研究の成果	
(2)	今後の課題	----- 「はじめに」と設定した場合には「おわりに」とします。
○	参考文献	

#### (3) 研究主題の設定

##### ア 研究主題の条件

研究主題の条件として、以下の点が挙げられます。

- 研究全体の方向や目的、価値が捉えられるもの。
- 研究する内容が具体化され、焦点化されているもの。

## イ 表記上の留意点

- (ア) 用語は一般に広く通用するもので、特殊な言葉や研究者等の造語はできるだけ使用しません。(必要な場合は「 」で示される場合があります。)
- (イ) 言葉の示す概念が、抽象的で幅広い意味を含む語や複数の意味を含む語はできるだけ使用しません。使用する場合は、その語の定義を本文中で明確にします。
- (ウ) 研究主題で十分に表現しきれない場合は、副主題を設ける場合もあります。

(例) 主体的・対話的で深い学びを実現する授業の創造  
～第○学年「○○○」の学習を通して～

## (4) 研究仮説の設定

研究仮説は、先述したとおり実践・検証されるものであり、内容が明確で、具体的なものとなるようにします。

研究仮説のモデルを示しますが、この中の研究の方法や手立ては、研究の中心となるので、精選し、自らの実践の中心を示すようにします。

○○において、      □□することによって、      ☆☆になるであろう。  
(研究対象)                      (研究の方法、手立て)                      (目指す姿、子供像)

## (5) 研究の実際 (内容)

複数の仮説を設定した場合には、それぞれの仮説ごとに大項を設定するのが一般的ですが、内容に応じて工夫します。

記述は、できるだけ具体的に行い、実践した内容が分かるようにします。そのために、写真や子供たちの感想を取り入れることも有効です。また、実践後のアンケート等を集約して記載すると、より実践の成果を論述する上で有効です。

## (6) 結果の考察

考察とは、仮説に基づく自らの実践に対する自分なりの評価です。考察が不十分であるということは、次への課題が明確にならず、研究の積み上げがなされないこととなります。したがって、教育論文にまとめる大きなねらいの一つが、考察にあると考えてもよいでしょう。

### ア 仮説の考察

実践(本論)を通して得られた資料を、このように分析した結果、このような事実が分かったということを基に、仮説の妥当性・有効性等を述べます。(実証)

実践には多くの要素があります。常に仮説を前提として考察を行うことで焦点化が図られることとなります。

### イ 考察での配慮事項

- (ア) できるだけ子供の変容を捉える。

本論の中から、子供の変容についてまとめ、仮説の有効性を述べます。ただし、都合のよいデータのみを使用することがないよう配慮してください。

- (イ) 必ず事実と対応させて考察する。

事実とは、数量化されたデータなどだけではありません。子供のノートや作品、発表等もあります。考察の根拠となった事実を示すということが大切です。

- (ウ) 事実と推測を明確にして述べる。

子供の表情や雰囲気から推測される内容もあります。その場合は、「～のように感じられた。」等、推測であることが分かるように述べるのが大切です。

- (エ) 事実を客観的に受け入れる。

仮説を肯定する事実だけでなく、否定する事実もできるだけ取り上げて考察することも大切です。(今後の課題や改善の方向に生かすことができる。)

#### 4 教育実践記録のまとめ方

##### (1) 内容

日常の教育活動の実践を継続的、系統的に積み上げ、その過程と結果を記録することに重点を置くものであり、帰納的な研究手法をとります。

##### (2) 構成

特に、定まった形式はありませんが、「(研究) 主題」、「実践の目的」、「実践の方法」、「実践の経過と結果」、「実践のまとめ (成果と課題)」といった構成が考えられます。こうした構成を参考に、実践の内容が伝わるように、項立てを自分なりに工夫してもかまいません。

##### (3) 教育実践記録として備えたい要件

###### ア 実践の目的

教育実践記録は、実践の過程と結果を記録することに主眼は置かれていますが、一つの研究としてまとめていくためには、どのような問題意識をもって実践を行ったか、その目的やねらい、意味付けを明確にする必要があります。

###### イ 実践の方法

実践記録であっても、実態を踏まえ、具体的なねらい (目指す姿) を設定し、そのねらいの達成に向けて実践する、考察においては、客観的なデータを基にねらいが達成されたかどうかを検証していくという一貫性が求められます。そのためには、実践上の視点、方法、工夫などが明示されていることが必要です。

###### ウ 実践結果の考察

実践の経過や結果などを記述していくときに、子供の変容を具体的に分かりやすく論じることには心掛ける必要があります。そのためには、子供の変容にあらかじめ設定された評価規準により観察・評価していくことや、指導についての検証方法等を明確にし、検証していく必要があります。教師の主観によるまとめ方にならないように、客観的データを基にして検証し、考察することは、教育実践記録においても大切になります。

#### 5 記載上の主な留意事項

##### (1) 用語に頼りすぎないようにしましょう。

教育用語は多くの著作や論説等の中で新たに創り出されてくるものも多くあります。用語の解釈等を説明し、模範例をあげるだけの文章にならないように気を付けることが大切です。

##### (2) 読み手を意識した分かりやすい表現に努めましょう。

##### (3) 文体は常体 (～である。～と思われる。等) が一般的です。

##### (4) 誤字・脱字に気を付けるとともに、用字・用語に誤りがいないか確認をしましょう。

##### (5) 項立ての見出し符号は次のような順序が一般的です。

1 ○○○・・・

(1) ○○○・・・

ア ○○○・・・

(ア) ○○○・・・

a ○○○・・・

##### (6) 引用した文献 (参考文献) は必ず明記しなければなりません。

